

平成16年(2004年)11月1日発行

楽しい企画が目白押し 第36回 若杉祭



昨年の若杉祭より: 左上・学活企画「肺病爆弾!!」、右上・文団企画「N.I.T.マン～食欲帝国の野望～」、左下、自主サークル「国際文化交流会」、中央・学祭企画「劇的びゅーていーびいふぉーあふたー」、右下・生涯学習センター作品展示 他

恒例の大学祭の季節を迎えた。毎年続く若杉祭も今年で36回を数え、11月5日(金)から7日(日)まで開催。会期中には、6日(土)にホームカミングデー、7日(日)に建築設計コンペの表彰式も行われる。また、工業技術博物館の特別展、生涯学習センターの作品展など、学園は「祭」一色に塗り替えられる。

ホームカミングデーが、館1階ロビーで受付、11時若杉祭2日目の11月6日から12時30分まで学内見学会の開催で開催される。工学科棟5階で懇親パーティーを予定し、15時から、情報学部の共催で開催される。卒業後30年、20年、10年の卒業生にお集まりいただく本企画も、今年で5回目。対象となる卒業生は、5期、15期、25期、並びにシステム工学部の7期、17期の皆さんである。

11/6 ホームカミングデーにどうぞ



当日は、10時30分より本委員会幹事・上野貴博(ホームカミングデー実行委)

平成16年度秋季 学位記授与式・入学式



柳澤学長より学位記を受け取る代表者

去る10月1日、平成16年度秋季入学式が情報工学科棟5階の会議室で挙行された。今回新たに学生生活をスタートさせたのは21名。内訳は本学の留学生別科や



入学式で祝辞を述べる大川理事長

他の日本語学校などを修了して1年生となる留学生が17名、本学付属高校を卒業し、カナダのレスブリッジ・コミュニティーカレッジ(日

本学の短期大学に相当)を経由して入学する学生が3名、留学生別科を経て編入する学生が1名となっており、これにあわせて留学生別科22名の入学式も同時に執り行なわれた。今回の新入生は、全員が留学生、あるいは留学経験のある日本人学生であるため、柳澤学長の式辞も「異文化の接触という体験を活かして、自分で考え自分で判断する人間になって欲しい」という告辞に始まり、学園理事長・後援会長・工友会長の祝辞、校歌斉唱など、全てのプログラムが厳かな雰囲気の中で、滞りなく行なわれた。

今回の大学祭は、『HUG the taste』というテーマの元、準備を進めてきた。このテーマを翻訳するとして、「おいしいところを手に入れる」という意味と、「Have」「Use」「Give」のそれぞれから頭文字を取って、「私たちが今までに、身につけた、経験(味)を、生かし、見に来てくださった方たちに感動を、与え、られる大学祭にしよう」という、二つの意味に取れるようになっていく。一つのテーマで、開催者側と来場者側、それぞれに向けてメッセージを発信出来るように考えられているのだ。全日程に、楽しいイベントが盛り込まれているので、ご来場の方々に私達が全力を尽くして完成させた若杉祭を、存分に楽しんでいただきたい。

まず1日目は『オープンニングセレモニー&オープニングパレード』で始まり、2部構成企画『E×FOOD DO?』(一部)や、インディーズバンドのNAP SAXによる『学祭スペシャルライブ』、中央執行委員会企画の『お笑いライブ2004』がある。夜には

『初夜祭』が行われ、大学祭実行委員会による『宝塚パーティー』も開かれる。2日目は『演武会』や、人気の『工業戦隊NITマン』、食欲帝国よ永遠に、『美少女?ファイティングニモ』『Soul of Dance』『E×FOOD O?』(2部)、『音団コンサート』と続く。

最終の3日目は『吹奏楽団コンサート』で幕を閉じ、『第36回能力選手権』『人間砲台』『美男子コンテスト』と続き、いよいよ若杉祭の目玉である『秋のからっ風GO!7188』を招き、盛り上がりを見せるであろう。最後に『後夜祭』では、豪華商品が当たる抽選会や、感動の花火大会が予定されている。

3日間すべて、朝から晩まで企画が目白押し!今年度も、昨年に引き続き模擬店展示、イベントの参加団体が増えた。ぜひ、友人、知人、家族の皆さんを誘って遊びに来て頂きたい。

大学祭実行委員会一同、心よりお待ちしております。(大学祭実行委員長・森田直樹)

本学では、学園創立百周年事業の一環として、専門職大学院の平成17年4月開設を目指している(文科省認可申請中)。設置するのは、技術経営研究科で、中小企業技術経営、プロジェクトマネジメント、3コース。修了要件単位数は34単位以上で、平日夜間と土曜日に受講し、1年間で修了できるシステム。学費は入学金30万円、授業料140万円で、70万円を貸与する奨学金制度もある。9月25日(土)には、建設中の神田キャンパスに近い神保町・岩波書店セミナールームで、第1回説明会を実施した。内容は、専門職大学院設置の趣旨、3コースの説明、カリキュラム・履修モデル、主な講師陣等の紹介、専門職大学院開設準備室長でもある村川正夫教授によるミニ模擬授業

「マイクロ・ナノテクノロジー企業化戦略」、質疑応答など。なお、今回は、設置申請記念行事として、講演会と説明会を、12月11日(土)如水会館(地下鉄神保町)または竹橋下で開催予定。詳細および今後の新しい動きは適宜ウェブページ上でご案内するので、左記URLでご覧いただきたい。

http://www.nit.ac.jp

専門職大学院の説明会開催

平成16年度 第14回 特別展

くらしの中の自動認識

生活に不可欠となったバーコード・ICタグの歴史としくみについて明らかにします。

展示内容
古代からの認識手法、手動式ラベル印刷・貼付器の歴史、バーコード(1次元・2次元)の歴史と最新技術、ICタグを利用した最新認識・情報配信技術など

◆開催期間 平成16年11月5日(金)～11月20日(土)

◆場所 工業技術博物館2階

◆入場 無料

講演会
自動認識技術のしくみと用途

講師: 社団法人日本自動認識システム協会 小池 勉氏

◆日時/11月18日(木) 13:20～15:00

◆場所/学友会館 ホール

主催 日本工業大学 工業技術博物館

Tel : 0480-33-7545 (博物館直通)

E-mail: museum@nit.ac.jp

日本工業大学 平成17年度入試日程

日本工業大学 工学部
●機械工学科 ●電気電子工学科 ●建築学科 ●システム工学科 ●情報工学科
*システム工学科は、定員150名から200名へ50名増加の予定(現在、文部科学省に認可申請中)

入試種別	出願期間	試験日	試験内容	合格発表	入学手続締切
一般入試	1月7日～2月5日	2月12日	・数学I、II、数学A(数と式)のみ	2月21日	2月28日
		2月13日	・物理IB		
		2月14日	・英語I、II、リーディング (受験日自由選択) ※上記のうちから任意の2科目を選択		
社会人入試	1月7日～1月19日	2月14日	小論文及び面接 書類審査による第1次試験の合格者のみ受験可能。第1次試験の合格発表は1月22日	2月21日	2月28日
帰国子女入試	1月7日～2月5日	2月12日	書類審査及び面接	2月21日	2月28日
AO入試(第2期)	11月26日～12月6日	12月11日	面談、課題への取り組み	12月18日	12月17日
		12月12日	(受験日はいずれかを大学が指定)		
AO入試(第3期)	2月21日～2月26日	3月5日	面談、課題への取り組み	3月11日	3月18日

日本工業大学 大学院工学研究科 博士前期課程・博士後期課程

●機械工学専攻 ●電気工学専攻 ●建築学専攻 ●システム工学専攻 ●情報工学専攻

本学で先端技術研究の取り組みを

社会人大学院生 募集!(日本工業大学 社会人特別選抜)

■平成17年度 大学院 社会人特別選抜入試日程

募集種別	出願期間	試験日	試験内容	合格発表	入学手続締切
二次募集	2月14日～2月22日	2月28日	書類選考・面接	3月5日	3月11日

願書のご請求およびお問い合わせ先: 教務部教務課 大学院入試係 TEL0480-33-7507(直通)

願書のご請求およびお問い合わせ先
〒345-8501 埼玉県南埼玉郡宮代町学園台4-1 日本工業大学教務部 入試室
☎0120-250-267 TEL: 0480-33-7676 (直通)
URL: http://www.nit.ac.jp/ E-mail: nyu-shi@nit.ac.jp

第18回 建築コンペ

建築を思考対象とする若い才能 応募313点 「町中に建つセカンドハウス」

全国の建築を学ぶ高校生を対象として、今年度も日本工業大学建築設計競技が実施された。今回は建築家の奥山信一氏（東京工業大学助教授）を審査委員長に迎え、「町中に建つセカンドハウス」を課題に開催された。応募は313点で、これらの作品は11月5日（金）から7日（日）まで、本学大学祭期間中に建築棟1階ホールで展示され、最終日に学友会館で表彰式が行われる。

受賞の言葉

建築とは知識の重なり合い

三重県立四日市工業高等学校 建築科 早川 智章



今回、私は初めて建築設計コンペに参加して、建築に対する考え方が180度変わりました。建築とは雑学であると深く感じたのです。人がどんな建築を必要

とされているのか、建築物に必要なのは何か、色々な知識が重なり合ってひとつの建築物になる、そういった感動を今回のコンペで経験することができました。私の兄が2002年の建築コンペで3等を頂きました。ずっと兄の足跡を追ってきた私は、今回の賞を頂いて、兄に近づけたのではないかと思います。私には色々なことを学び、成長したところが沢山あります。このような賞を頂き有難うございました。

日本工業大学建築設計競技入選者

- | | |
|---|---|
| ● 審査員賞 | ● 佳作 |
| <ul style="list-style-type: none"> 一等 三重県立四日市工業高等学校 早川 智章 二等 青森県立青森工業高等学校 坂本 司 二等 堺市立工業高等学校 西川 亮 二等 群馬県立桐生工業高等学校 星野 奈名美 | <ul style="list-style-type: none"> 滋賀県立八幡工業高等学校 飯田 雄一郎 兵庫県立兵庫工業高等学校 植村 卓也 群馬県立桐生工業高等学校 加藤 貴志 三重県立四日市工業高等学校 川村 祥介 山梨県立甲府工業高等学校 中山 真吾 北海道釧路工業高等学校 西村 清志 愛知県立半田工業高等学校 山下 卓也 |

1等 早川智章さん 受賞作品

出題者の予想を大きく超えた 早川さんの構想力

講評



奥山信一（建築家）
1961年・東京都生まれ。86年・東京工業大学工学部建築学科卒業。89年・DESK5設計を共同設立。92年・東京工業大学大学院博士課程修了。95年・東京工業大学助教授（主な作品）石神井公園の住宅（94年）。南飛騨・健康学習センター（03年）。日光霧降・マーブルハウス（04年）等。

住宅を設計する時の姿勢として、大きく二つのアプローチがあると思う。一つは、住宅を建築の最も根源的な姿を示すものと捉え、人が住まう空間の遠方に建築一般への回路を見据える姿勢である（空間性）の追求。もう一つは、住宅を私たちの日常生活と最も密接に関わる空間と捉え、そうした生活の空間化への道筋を辿る彼方に私たち人間の精神の解放を見いだす

どこからが作り話なのか？ どちらにしても、巧みな虚構性は実際の出来事よりもリアルティがあることをこの作品は見事に示している。2等には3作品を選んだ。まず、坂本家では、街角の細い敷地の地下に埋蔵された小劇場が提案される。演目がないときは舞台と段状の客席空間が主客一体となった生活空間として現れる。図面では賑やかな演奏会風景が卓抜したドローイングで示されているが、この空間に一人で佇む光景にもリアルティがある。

西川家は既存のビルの屋上に、段ボール・セルフビルドの極小の覆いを散りほめた提案である。しかし、最小単位の覆いのコンピネーションが執拗に描かれたパターンからは、もしかしたら段ボールセルフビルドは単なるコンペ案作成上の手段であって、家とは身の丈サイズのリアルティある部分空間の集積であるべきだという、現代の住宅状況に対するアイロニーさえ漂わせている。

機械学会と

第6回 ビジネス交流会共同開催

(別表1) 資金収支計算書

科目	H15年度	H14年度	増減
収入の部			
学生生徒等納付金収入	7,120,898	7,040,979	79,919
手数料収入	79,410	74,589	4,821
寄付金収入	133,166	135,687	△2,521
補助金収入	782,431	726,695	55,736
資産運用収入	13,564	10,981	2,583
資産売却収入	0	0	0
事業収入	63,067	59,868	3,199
雑収入	99,459	176,242	△76,783
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	3,094,178	3,103,933	△9,755
その他の収入	702,376	621,909	80,467
資金収支調整勘定	△3,397,504	△3,372,861	△24,643
前年度繰越支払資金	6,039,607	5,176,691	862,916
収入の部合計	14,730,652	13,754,713	975,939

科目	H15年度	H14年度	増減
支出の部			
人件費支出	3,073,014	3,237,792	△164,778
教育研究費支出	1,628,806	1,582,276	46,530
管理経費支出	365,360	345,165	20,195
借入金等利息支出	151,584	167,252	△15,668
借入金等返済支出	366,080	369,410	△3,330
施設関係支出	295,718	251,637	44,081
設備関係支出	579,534	642,557	△63,023
資産運用支出	1,740,584	474,100	1,266,484
その他の支出	1,429,323	727,593	701,730
資金支出調整勘定	△94,570	△82,677	△11,893
次年度繰越支払資金	5,195,219	6,039,608	△844,389
支出の部合計	14,730,652	13,754,713	975,939

(別表2) 消費収支計算書

科目	H15年度	H14年度	増減
消費収入の部			
学生生徒等納付金	7,120,898	7,040,979	79,919
手数料	79,410	74,589	4,821
寄付金	142,742	142,185	557
補助金	782,431	726,695	55,736
資産運用収入	10,196	10,836	△640
事業収入	63,066	59,868	3,198
雑収入	100,021	176,659	△76,638
帰属収入合計	8,298,764	8,231,811	66,953
基本金組入額合計	△660,882	△645,687	△15,195
消費収入の部合計	7,637,882	7,586,124	51,758

科目	H15年度	H14年度	増減
消費支出の部			
人件費	3,024,758	3,240,062	△215,304
教育研究経費	3,099,915	2,677,336	422,579
管理経費	413,138	380,247	32,891
借入金等利息	151,584	167,251	△15,667
資産処分差額	102,518	147,982	△45,464
その他の支出	1,285,640	580,121	705,519
消費支出の部合計	8,077,553	7,192,999	884,554
当年度消費収支超過額	△439,671	393,125	△832,796
前年度繰越支出超過額	△6,781,392	△7,174,517	393,125
翌年度繰越支出超過額	△7,221,063	△6,781,392	△439,671

(別表3) 貸借対照表

科目	資産の部		増減
	H15年度	H14年度	
固定資産	30,815,720	30,143,715	672,005
有形固定資産	22,344,382	23,078,364	△733,982
その他の固定資産	8,471,338	7,065,351	1,405,987
流動資産	5,546,960	6,436,378	△889,418
合計	36,362,680	36,580,093	△217,413

科目	負債・基本金・消費収支差額の部		増減
	H15年度	H14年度	
負債の部	8,445,973	8,884,597	△438,624
固定負債	4,765,339	5,175,804	△410,465
流動負債	3,680,634	3,708,793	△28,159
基本金の部	35,137,770	34,476,888	660,882
翌年度繰越消費収支差額	△7,221,063	△6,781,392	△439,671
合計	36,362,680	36,580,093	△217,413

(別表4) 資金収支予算書

科目	H16年度	H15年度	増減
収入の部			
学生生徒等納付金収入	6,810,515	6,745,277	65,238
手数料収入	66,810	62,678	4,132
寄付金収入	103,400	83,800	19,600
補助金収入	836,458	649,190	187,268
資産運用収入	7,000	7,800	△800
資産売却収入	0	0	0
事業収入	45,558	53,788	△8,230
雑収入	103,319	11,610	91,709
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	2,778,285	2,787,024	△8,739
その他の収入	1,497,246	545,474	951,772
資金収支調整勘定	△3,094,178	△3,103,932	9,754
前年度繰越支払資金	5,195,219	6,039,608	△844,389
収入の部合計	14,349,632	13,882,317	467,315

科目	H16年度	H15年度	増減
支出の部			
人件費支出	3,112,400	3,076,252	36,148
教育研究費支出	2,011,784	1,936,365	75,419
管理経費支出	413,058	418,715	△5,657
借入金等利息支出	143,950	151,585	△7,635
借入金等返済支出	362,210	366,080	△3,870
施設関係支出	535,000	192,000	343,000
設備関係支出	667,001	794,987	△127,986
資産運用支出	1,888,904	1,534,804	354,100
その他の支出	1,167,334	1,263,806	△96,472
(予備費)	72,000	72,000	0
資金支出調整勘定	△19,028	△23,592	4,564
次年度繰越支払資金	3,995,019	4,099,315	△104,296
支出の部合計	14,349,632	13,882,317	467,315

(別表5) 消費収支計算書の主要項目の分析表

主要項目の分析比率(%)	H15年度	H14年度	増減
補助金/帰属収入	9.43	8.83	0.60
人件費/帰属収入	36.45	39.36	△2.91
教育研究経費/帰属収入	37.35	32.52	4.83
管理経費/帰属収入	4.98	4.62	0.36
借入金等利息/帰属収入	1.83	2.03	△0.20
人件費/学生納付金	42.48	46.02	△3.54

平成十七年四月施行の改正私立学校法により、一層の管理運営強化が私学に求められることとなります。学費、補助金、寄付金という公共性の強い資金により運営されている私学は、その管理運営の透明性が求められる必要があると考えます。我々は限られた収入構造の中、教育研究政策、人件費政策、施設設備更新計画等の支出面を中心とした中長期計画の具現化に努め、経営安定を目指してまいります。本学の教育事業運営に対するより一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

(財務部)



●上：ビジネス交流会 下左：機械学会講演会での発表 下右：学生賞授与風景

第6回日本工業大学ビジネス交流会が、9月10日(金)・11日(土)の両日、本学宮代キャンパスの学友会館にて開催された。今回は日本工業大学と日本機械学会関東支部プロック合同講演会との共同開催である。出展企業は24社と例年に比べて小規模であったが、学会関係の入場者が多数詰めかけた。

機械学会がらみと言うことで、今年も、機械金だ。湖沼や川に発生したヘリに型の製作機械をもちこんだ企業もある。ついでコンピュータ解析ソフト、計測ソフトのデモ展示が多く、先日の原発事故の解析や事故防止教育にすぐ使えるようなソフトもあった。もう一つの特徴は、環境対策関連

企業展示が目立ったこと。湖沼や川に発生したヘリに型の製作機械をもちこんだ企業もある。ついでコンピュータ解析ソフト、計測ソフトのデモ展示が多く、先日の原発事故の解析や事故防止教育にすぐ使えるようなソフトもあった。もう一つの特徴は、環境対策関連

果でもある。日工大発のテーマにふさわしい展示であり、極めて意義深い交流会であった。

当日はMINSI大会があり、その関係で本学付属中学生の多数が来場し見学した。これも将来を考えると極めて大きな意味があることである。

(産学リエゾンセンター長・増田 伸爾)

日本機械学会関東支部プロック合同講演会

9月10・11日で開催。今回は、埼玉(金・土) 玉環および大学の地元である宮代町の後援を頂いた。日本機械学会関東支部プロック合同講演会と併せて本学産学リエゾンセンターとの共同でビジネス交流会も開催。会場は学友会館および3号館(4講演室)として。講演件数は163件で内訳は埼玉53%、栃木15%、群馬8%、東京20%、神奈川他4%である。またビジネス交流会には24企業/団体の出展を頂いた。参加者は359名(一般125名、学生234名)である。特定研究分野の発表には3県を持ち回り、10名の学生に賞を与えた。本学からは岡本正君、宮本祐也君(共に機械工学科長坂坂研究室)および篠田祐馬君(機械工学科梅崎研究室)の3名が受賞。他の受賞者は宇都宮大学2名、東京電機大学2名等である。

初日の講演会終了後に開催された懇親会には、200名以上が参加、盛況であった。日本機械学会鈴木浩平(関東支部長・都立大学工学部)の来賓挨拶、本学大川陽康理事長、柳澤章学長等の挨拶の後、参加者一丸となって懇談した。

(実行委員長・機械工学科教授 玉木 保)

彩の国まごころ国体 炬火リレー本学で中継

彩の国まごころ国体秋季大会が10月24日(日)から27日(水)迄開催されたが、それに先立つ大会旗・炬火リレーが、18日(月)本学で中継された。

本学では、この国体に協力し、10月21日(木)から28日(木)、学友会館で「アチエリー」競技役員宿泊を

一般には大学を取り巻く環境は、少子化の加速により学生数が減少する一方で、規制緩和により大学設置数の増加、加えて国立大学の独立法人化による私学の競争激化など、大変厳しくなっております。

このような厳しい環境下を生き残るためには、大学の健全性を確保し、財政の充実に努めることが必要です。本学は既に「自己点検・自己評価」の取り組みを実施し、(財)大学基準協会からの第三者評価を受けており、その結果は、それぞれ別表1から別表3のとおりであり、また、別表5に「消費収支計算書主要項目分析表」を添付しておりますので併せてご参照下さい。

この課題に対して継続して改善・改革に取り組んでおります。

第三七期決算・第三八期予算が公認会計士及び法人監事の監査を受け、法人評議会・評議員会でそれぞれ承認され決定いたしましたので、ここに平成十五年年度決算と平成十六年度予算の財務諸表を公表し、卒業生、御父母の皆様を始めとする本学を支援下さる関係各位のご理解を賜り、連携を深め、今後の厳しい課題を背負う時代に立ち向かってまいりたいと考えております。皆様方のご支援とご協力をお願い申し上げます。

支出の部では、人件費は人事院勧告に基づき賃下げ等により二・一億円の減少、人件費依存率(学生納付金収入に占める人件費の割合)は四二・五%となりました。教育研究費は教育予算配分の充実、補助金等外部資金の積極的導入に注力したことで、二億円の増加となりました。教育研究の充実を要する帰属収入に占める教育研究費の割合は三

支出の部では、人件費は人事院勧告ならびに退職者数を勘案し微増の予算。教育研究経費及び管理経費は、経費削減の見直し強化により低学年教育特別予算枠を新設するなど、教育研究費の一層の充実を図る予算配分をいたしました。また、資産運用支出では、百周年事業に向けた第2号基本金を新設しました。

平成十七年四月施行の改正私立学校法により、一層の管理運営強化が私学に求められることとなります。学費、補助金、寄付金という公共性の強い資金により運営されている私学は、その管理運営の透明性が求められる必要があると考えます。我々は限られた収入構造の中、教育研究政策、人件費政策、施設設備更新計画等の支出面を中心とした中長期計画の具現化に努め、経営安定を目指してまいります。本学の教育事業運営に対するより一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

(財務部)

第37期決算・第38期予算

日本工業大学の財政状況について

一 はじめに

二 平成十五年年度決算について

三 平成十六年度予算について

四 むすび



●ミニトレインフェスティバルでは、観客も乗車を楽しんだ。

自慢の車両運転を楽しむ

第3回5インチゲージ ミントレイン・フェスティバル

9月11日(土)、12日(日)の両日、本学キャンパス内で、5インチゲージ・ミニトレイン・フェスティバルが開かれた。

本学と付属東京工業高等学校との共催で、参加車両はSL36台、電気機関車等45台。外国からは台湾の阿里山鉄道の林氏、遠方からは山口県下関工業高校の山本氏などが参加。自慢の車両運転を楽しんだ。

(写真および情報提供は、日本工業大学付属東京工業高等学校)

この課題に対して継続して改善・改革に取り組んでおります。

第三七期決算・第三八期予算が公認会計士及び法人監事の監査を受け、法人評議会・評議員会でそれぞれ承認され決定いたしましたので、ここに平成十五年年度決算と平成十六年度予算の財務諸表を公表し、卒業生、御父母の皆様を始めとする本学を支援下さる関係各位のご理解を賜り、連携を深め、今後の厳しい課題を背負う時代に立ち向かってまいりたいと考えております。皆様方のご支援とご協力をお願い申し上げます。

支出の部では、人件費は人事院勧告ならびに退職者数を勘案し微増の予算。教育研究経費及び管理経費は、経費削減の見直し強化により低学年教育特別予算枠を新設するなど、教育研究費の一層の充実を図る予算配分をいたしました。また、資産運用支出では、百周年事業に向けた第2号基本金を新設しました。

平成十七年四月施行の改正私立学校法により、一層の管理運営強化が私学に求められることとなります。学費、補助金、寄付金という公共性の強い資金により運営されている私学は、その管理運営の透明性が求められる必要があると考えます。我々は限られた収入構造の中、教育研究政策、人件費政策、施設設備更新計画等の支出面を中心とした中長期計画の具現化に努め、経営安定を目指してまいります。本学の教育事業運営に対するより一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

(財務部)

